

鹿島臨海鉄道株式会社

[法人の概要]

平成30年7月1日現在

代表者名	代表取締役社長 玉木 良知(非常勤)	県所管部課	政策企画部交通局交通政策課	
所在地	東茨城郡大洗町桜道301	電話番号	029-267-5200	
ホームページURL	http://www.rintetsu.co.jp/	E-mailアドレス	email@rintetsu.co.jp	
資本金(基本財産)	1,226,000	千円	設立年月日	昭和44年4月1日
主な出資者	出資順位	出資者名	出資額(千円)	出資比率
	1	日本貨物鉄道株式会社	460,000	37.5%
	2	茨城県	362,000	29.5%
	3	新日鐵住金株式会社	60,000	4.9%
	4	三菱化学株式会社	54,800	4.5%
	5	全国農業協同組合連合会	36,000	2.9%
その他	昭和産業株式会社 ほか16社		253,200	20.7%
設立目的	鹿島臨海工業地帯の生産品及び原料の輸送を主たる目標として、日本国有鉄道、茨城県及び進出企業の共同出資により、昭和44年4月1日に設立した。 その後、かねて建設中の国鉄鹿島線水戸駅～北鹿島駅間を国鉄(現JR東日本)に代わって、当社が経営することになり、昭和60年3月14日から大洗鹿島線として旅客営業を開始した。			

[事業の概要]

(単位:千円)

事業名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	内 容	
事業1	旅客運輸事業	796,178	837,028	815,506	大洗鹿島線として、JR水戸駅から鹿島サッカースタジアム駅間の53.0キロメートルとJR鹿島神宮駅までの3.2キロメートルの直通乗り入れを合せ、計56.2キロメートルの旅客鉄道事業のほか、駅売店の運営、施設賃貸などの関連事業を実施している。
	全体事業に占める割合	69.4%	71.2%	70.9%	
事業2	貨物運輸事業	350,794	337,994	335,147	鹿島臨港線として、鹿島サッカースタジアム駅と当社奥野谷浜駅間を結ぶ19.2キロメートル貨物鉄道事業を実施している。コンテナ貨物の輸送を中心に、鹿島臨海工業地帯の輸送動脈として、地域経済の発展に寄与している。
	全体事業に占める割合	30.6%	28.8%	29.1%	
事業3					
	全体事業に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
その他事業	事業1～3以外	0	0	0	
	全体事業に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
全体事業		1,146,972	1,175,022	1,150,653	指定管理者
	全体割合	100.0%	100.0%	100.0%	

< 鹿島臨海鉄道株式会社 から県民のみなさまへ >

大洗鹿島線では、「輸送の安全の確保」、「お客様の求める質の高いサービスの提供」、「地域との連携・共生」の3つの基本的な考え方に基づき、地域の基幹的な公共交通機関としての役割を担っていくため、持続可能な経営基盤を確立し、地域に信頼される鉄道を目指し、全社を挙げて取り組んでおります。

沿線における人口の減少、超高齢化社会の到来など、経営環境は一層厳しさを増していくことが予想されますが、引き続き、経営の効率化を進めるとともに、老朽化した車両や施設等の更新を計画的に行い、更なる利便性・安全性の向上に努めてまいります。

今後とも、地域の発展に寄与するとともに、地域の皆様の豊かな生活を支え、信頼される鉄道会社を目指してまいります。

平成31年2月 代表取締役副社長 鈴木 哲也

[経営状況] 鹿島臨海鉄道株式会社 (単位:千円)

区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	増減数	増減理由
損益の状況	売上高	1,146,972	1,175,022	1,150,653	△ 24,369	旅客、付帯収入の減
	売上原価	1,023,856	1,086,875	1,082,335	△ 4,540	
	売上総損益金額	123,116	88,147	68,318	△ 19,829	
	販売費及び一般管理費	126,235	108,534	93,557	△ 14,977	仕入経費の減
	うち役員人件費(原価計上分含む)	27,751	32,280	32,628	348	
	うち職員人件費(原価計上分含む)	605,131	631,703	583,660	△ 48,043	作業効率化による減
	営業損益金額	△ 3,119	△ 20,387	△ 25,239	△ 4,852	
	営業外収益	30,227	22,675	22,659	△ 16	
	営業外費用	1,699	1,643	1,496	△ 147	
	経常損益金額	25,409	645	△ 4,076	△ 4,721	
	特別利益	102,360	160,338	170,863	10,525	投資有価証券償還差益
	特別損失	102,330	158,162	108,753	△ 49,409	固定資産圧縮損の減
	法人税・住民税・事業税	8,907	5,347	6,826	1,479	
当期純損益金額	16,532	△ 2,526	51,208	53,734		
貸借対照表	資産	4,216,301	4,064,270	4,147,190	82,920	
	流動資産	998,660	713,759	870,808	157,049	支払金額の減
	固定資産	3,217,641	3,350,511	3,276,382	△ 74,129	投資有価証券の償還
	繰延資産	0	0	0	0	
	負債	1,094,539	945,034	976,746	31,712	
	流動負債	451,091	290,583	295,061	4,478	未払消費税の増
	うち短期借入金	0	0	0	0	
	固定負債	643,448	654,451	681,685	27,234	各種引当金の繰入額の増
	うち長期借入金	0	0	0	0	
	純資産	3,121,762	3,119,236	3,170,444	51,208	
	資本金	1,226,000	1,226,000	1,226,000	0	
	利益剰余金	1,895,762	1,893,236	1,944,444	51,208	当期純利益
	その他	0	0	0	0	
県財政関与状況	補助金	18,568	10,213	30,209	19,996	
	委託料	0	0	0	0	
	貸付金	0	0	0	0	
	その他(分担金・負担金・出資金等)	0	0	0	0	
	合計	18,568	10,213	30,209	19,996	
	財政的関与の割合(%)	1.6%	0.9%	2.6%	1.8	
	損失補償・債務保証契約に係る債務残高(期末)	0	0	0	0	
	借入金残高(期末)	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0		

主要経営指標	算式等	平成27年度	平成28年度	平成29年度	増減P	備考
人件費比率	人件費/売上高	55.2%	56.5%	53.6%	△ 2.9	
販売管理費比率	販売費・一般管理費/売上高	11.0%	9.2%	8.1%	△ 1.1	
自己資本利益率	当期利益/自己資本	0.5%	-0.1%	1.6%	1.7	
総資産回転率	売上高/総資産	0.3	0.3	0.3	△ 0.0	
売上高経常利益率	経常利益/売上高	2.2%	0.1%	-0.4%	△ 0.4	
流動比率	流動資産/流動負債	221.4%	245.6%	295.1%	49.5	
借入金比率	借入金残高/総資本	0.0%	0.0%	0.0%	0.0	

[組織]

7月1日現在の人数		平成28年			平成29年			平成30年			増減数	増減理由
		県派遣	県OB	合計	県派遣	県OB	合計	県派遣	県OB	合計		
役員	常勤理事・監事	5	0	2	5	0	2	6	0	2	1	
	非常勤理事・監事	14	3	0	14	3	0	14	3	0	0	
	計	19	3	2	19	3	2	20	3	2	1	
職員	管理職	14	1	0	12	1	0	13	1	0	1	
	一般職	74	0	0	75	0	0	74	0	0	△ 1	
	嘱託・臨時職員等	28	0	0	27	0	0	22	0	0	△ 5	
	計	116	1	0	114	1	0	109	1	0	△ 5	
当期	プロパー職員平均勤続年数	17.0年	常勤職員(嘱託・臨時職員を除く)の年齢構成	~20代	30代	40代	50代	60代	合計	平均年齢	常勤役員平均報酬(年額)	
				25	13	39	10	0	87		38.2歳	3,690.5千円
											プロパー職員平均給与(年額)	
											4,447.1千円	

[評点集計]

評価の視点	評価項目数	評点	満点	得点率
目的適合性	9	20	20	100%
計画性	8	19	20	95%
組織運営健全性	10	17	20	85%
効率性	11	15	20	75%
財務健全性	9	14	19	74%
合計	47	85	99	86%

企業会計用

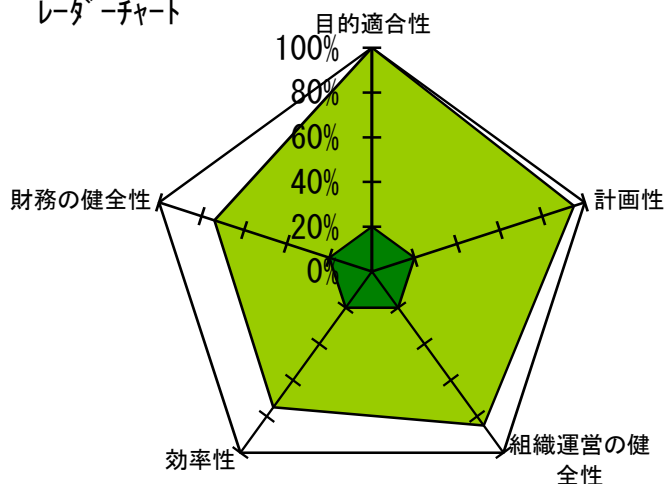
鹿島臨海鉄道株式会社

警戒指標

《評価の視点》

目的適合性	法人が行っている事業と当初の設立目的が適合しているか
計画性	経営目的、経営方針が各種計画に反映され、計画・実行・見直しが行われているか
組織運営健全性	組織、人事、財務等の内部管理体制が適切に整備・運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切か
効率性	組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているか
財務健全性	法人の財務体質が健全であるか、また、各事業の採算性がとれているか

経営評価
レーダーチャート



[法人の自己評価（経営概況、経営上の課題・対策等）]

目的適合性	計画性	組織運営健全性	効率性	財務健全性
<p>弊社は、昭和44年、鹿島臨海工業地帯の生産品及び原料の輸送を主たる目的として設立、昭和60年、国鉄（当時）に代わって大洗鹿島線の旅客営業を開始しました。沿線人口の減少などにより、輸送需要は漸減していくものと予想されますが、引き続き、地域における基幹的な公共交通機関としての役割を担ってまいります。</p>	<p>会社経営の指針として、5ヶ年を計画期間とする「中期経営計画」を策定し、適切な進行管理を行うとともに、社会経済情勢の変化にきめ細かく対応するため、毎年度の実施方針を定め、全社員が一丸となって各種営業施策に計画的に取り組んでいます。</p>	<p>会計・経理業務について、外部監査法人による定期的な監査のほか、役員及び全社員の義務及び役割並びに社内体制等に関してコンプライアンス規程を定めるなど、健全な組織の運営体制の確保に努めています。</p>	<p>役員会議、業務運営会議を毎月開催し、業務実績等の情報を共有するとともに、経営資源の効率的な活用について検討を行い、作業ダイヤ見直し等による人件費の節減など、各業務の効率化に努めています。特に、安全輸送を前提に、お客様のニーズを踏まえた旅客・貨物輸送の効率化に努めています。</p>	<p>平成29年度は悪天候の影響や主要荷主の工場設備の故障などにより、旅客輸送人員及び貨物輸送量ともに平成28年度を下回る結果となりました。今後も厳しい経営環境が続くものと思われませんが、引き続き、「持続可能な経営基盤の確立」の達成に向け、役員・社員が一丸となって取り組んでまいります。</p>
<p>今後の事業展開の方向</p>	<p>旅客事業については、沿線人口の減少や少子化などにより、依然として厳しい経営環境が予想されますが、平成27年度から順次計画的に導入している新型車両を活用しながら、お客様のニーズに的確に応えるべくサービスの向上に努めるとともに、沿線地域とのより一層の連携強化を図るなど、利用客の確保施策を推進してまいります。</p> <p>貨物事業については、鉄道未利用企業への営業活動の強化などにより新規顧客の獲得に努めるほか、JR貨物及び利用運送事業者との連携を図り、増収を図ってまいります。</p>			

[法人担当課の意見]

目的適合性	計画性	組織運営健全性	効率性	財務健全性
同法人の行っている鉄道事業は、沿線住民の生活や地域経済に不可欠な輸送手段となっており、当初の設立目的と適合している。	5カ年の「中期経営計画」を策定して、経営方針を計画に反映させるとともに、毎年度策定する「経営計画」において、目標の見直しや進捗管理を行うなど、計画的に経営が行われている。	鉄道事業法に基づく安全管理規程を制定し輸送の安全確保に関する責任者を明確化するとともに、コンプライアンス規程等を設けるなど、組織の内部管理体制は適切に整備されている。	効率的な運行体制による要員削減等、業務の効率化による経費削減に取り組むとともに、駅構内や車両に広告スペースを設置し収入確保を図るなど、経営資源を有効活用している。	平成29年度決算において、当期純損益が黒字となったものの、営業損益及び経常収支が赤字であることから、引き続き改善を図る必要がある。
<p>法人担当課の意見</p> <p>鉄道事業は、今後も厳しい経営状況が続く見通しであることから、県は収支改善の取組を指導していく。特に、旅客輸送に対しては、沿線市町と連携し、「大洗鹿島線を育てる沿線市町会議」において利用促進に取り組むとともに、国の鉄道支援制度を活用した支援スキームに基づき、安全輸送設備整備など必要な支援を行っていく。</p>				

[経営目標]

区分	指標名	単位	H27実績	H28実績	H29目標値	H29実績	達成度(%)	H30目標値	
経営目標	事業成果	1 旅客輸送量	千人	2,104	2,185	2,207	2,119	96.0%	2,137
		2 貨物輸送量	千トン	279	281	288	276	95.8%	289
	健全性	1 自己資本比率	%	74.0	76.7	70.0	76.4	100.0%	70.0
		2 流動比率	%	221.4	245.6	200.0	295.1	100.0%	200.0
	効率性	1 総資本回転率	%	27.2	28.9	25.0	27.7	100.0%	25.0
		2 自己資本回転率	%	36.7	37.7	35.0	36.2	100.0%	35.0
平均目標達成度							98.6%		

[総合評価]

取組みを強化すべき視点	目的適合性	計画性	組織運営健全性	効率性	財務健全性
総合的所見等	<p>概ね良好 改善の余地あり 改善措置が必要 大いに改善を要する</p>				
	<p>平成29年度は、旅客輸送量及び貨物輸送量が共に減少したことから経常利益は△4,075千円(前期差4,720千円減)となったものの、特別利益として投資有価証券償還差益を計上したことから、当期純利益は51,208千円(前期差53,734千円増)となった。</p> <p>旅客事業については、沿線市町人口の減少やガールズ&パンツァーの集客が一段落したことなどにより利用者数が減少しているが、新型車両の導入を最大限に活かし、利用者ニーズを捉えたサービス向上に努めるとともに、「大洗鹿島線を育てる沿線市町会議」と連携して利用促進策の強化を図りたい。</p> <p>貨物運輸事業については、台風の接近や北陸地方の大雪の影響、政府米輸送の大幅減などにより輸送量が減少しているため、子会社を含めたグループとしてのソリューション活動の推進や新規荷主の開拓、適正運賃の確保などにより、収益の拡大を図りたい。</p> <p>引き続き、安全な運行を堅持するため、計画的な運転士の人材育成に注力し、地域の人々の暮らしを支える重要な公共交通機関としてその役割を果たされたい。</p> <p>(県所管課は、沿線市町と一体となって公共交通を維持確保していく観点から、沿線市町との協力体制を堅持された)</p>				
総合的所見等に係る対応	<p>収支改善を図るため、「大洗鹿島線を育てる沿線市町会議」との連携や、国体等のイベントを契機とした利用促進の取組の実施に努めるとともに、新型車両を活用した利用者確保のためのサービスの向上や新規荷主の開拓等による収益拡大、経費節減の徹底を指導していく。</p> <p>また、車両更新等の施設整備について、設備投資計画に基づき引き続き沿線市町と一体となって必要な支援を行うとともに、運転士の人材育成について計画的に進めるよう指導し、大洗鹿島線の安全輸送の確保及び利便性の向上を図っていく。</p>				